



全国学力・学習状況調査の結果より

3年生を対象に4月18日に実施された令和6年度の全国学力・学習状況調査（国語・数学・生徒質問紙生活調査）における本校の結果について、傾向（強みと弱み）等をまとめました。この調査の目的は、学習や生活の状況を把握するとともに、より効果的な教材や学習の進め方や生活等を検証し、指導の充実や学習状況の改善等に役立てることで、今回の調査結果を踏まえ、各教科の指導方法等の改善や生活面等への指導・支援に活かしていきたいと考えます。

1 学力調査からみられる本校生徒の特徴（強みと弱み）

【国語】

全体としては全国平均並みであり、短答式の問題は平均以上の正答率のものが多い。

知識を問う問題での正答率は全国平均と大きな開きはないので、授業の中である程度力がついているように感じた。また、多くの問題で無回答率が全国平均を下回っており、前向きに問題に取り組もうとしていることがわかる。

しかし、「読むこと」に関する問題には苦手感がうかがえる。言葉と言葉の関係を読み解いたり、出題の意図を考えて答えたりする力をつけさせていきたい。

授業で、与えられた条件をふまえて自分の考えを書かせる機会があっても、一人ひとりの生徒に「Aの条件は満たされているが、Bの条件が満たされていない」などと具体的な形でフィードバックができていなかったことが反省点である。

これからも観点を示しながら自分の考えを書く活動は取り入れるが、「どういった内容を書くことが求められているのか」を明確にすること、仲間と交流して学ばせること、教師から生徒へのフィードバックを具体的にすることを意識して授業をしていきたい。

【数学】

正答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っている。

領域別では、図形分野、データの活用の分野で、全国平均を4から5ポイント上回った。特に、図形分野では筋道を立てて考え証明すること、データの活用分野では分布の傾向を比較して読み取り説明することができた。また、無回答率も（特に記述式問題について）全国平均を大きく下回っていることから、前向きに粘り強く取り組もうとしていることがわかる。

一方で、関数分野が全国平均を下回っている。式とグラフの関連づけや、グラフの特徴をとらえ事象に即して解釈する力が弱かった。2年時のみえスタディチェックにおいてもこの傾向はみられたが、記述式問題では全国平均を上回っているため、書く力や説明する力は少しついてきていると考えられる。

今回平均を上回った記述式問題は、これまで、小テストの振り返りや思考力を問う問題に対して、自分なりの考えを自分の言葉で書く機会を設定してきた成果だと考える。

また、図形の証明のように筋道を立てて説明する力や、データを分析して正しく判断する力は今後の生活にもおおいに役立つので、さらなる向上を目指して取り組んでいきたい。

関数の領域においては、今後、特にグラフを使うよさを実感できるような具体的な活用場面を設定し、1、2年生で学習した内容と比較しながら丁寧に授業を進めていきたい。また、今年度行っている少人数授業を活用し、個々の能力を伸ばすことに力を入れていきたい。

2 生徒質問紙からみられる特徴

【学習面】

授業時間以外の学習時間(学習塾・家庭教師等を含む)について、平日・休みの日とも、常磐中学校の生徒は、県や全国に比較して多く時間をとっていることがわかりました。

・平日の学習時間:「2時間以上」(本校 33.0%、県 30.0%、全国 31.7%) 「30分以下・全くしない」(本校 11.9%、県 17.3%、全国 17.0%)

昨年度の調査(2時間以上:R5年度本校 27.5%)と比較しても、今年度の3年生は学習時間を多くとっている生徒が増えています。

また、「1.2年生の時に受けた授業は自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」(本校 89.6%、県 82.5%、全国 80.9%)

「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」(本校 89.8%、県 79.2%、全国 77.9%)の調査結果から、意欲をもって授業の復習に取り組んでいる様子もうかがえます。

中学校では、基礎学力定着のための短い時間を活用した学習や定期テスト前の質問会などに取り組んでおり、「できた、わかった」という達成感が、教科の興味・関心につながっていると考えます。また、授業の工夫では、ペア学習やグループ学習のほか、ティームティーチングや少人数授業にきめ細やかに取り組んできた一定の成果だと考えます。

【生活面】

「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時刻に寝る」「毎日、同じくらいの時間に起きる」など基本的な生活習慣に関する設問に、それぞれ 93.6%、88.7%、93.6%の生徒が肯定的な回答をしています。これは、いずれも全国(91.2%、80.7%、92.5%)に比較して上回っています。

また、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等などのすべての質問において、肯定的な回答をした生徒の割合が、県や全国と比較して、同程度か数ポイント上回っています。

<例>

「自分はよいところがあると思いますか」(本校 86.5%、県 83.8%、全国 83.3%)

「将来の夢や目標を持っていますか」(本校 77.3%、県 67.5%、全国 66.3%)

「先生はあなたの良いところを認めてくれますか」(本校 92.9%、県 91.4%、全国 90.4%)

「友達関係に満足していますか」(本校 93.5%、県 90.7%、全国 90.1%)

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」(本校 85.9%、県 77.7%、全国 76.3%)

これらから、多くの生徒が教師や級友と良好な関係を築けており、学校生活を有意義に感じていることが分かります。また、地域のボランティア活動にも興味を持ち、貢献したいという思いがうかがえます。今後も、日々の授業、部活動、学校・地域行事など教育活動全体の中で、支え合い認め合える仲間づくりに努めたいと考えます。

3 今後の取組について

家庭学習の定着や補充学習等の充実に向けては、学校全体で計画的、継続的に取組を進めているところです。今後におきましても、以下の取組をとおして、一人一人の生徒の学習意欲の向上等につなげていきたいと思えます。

(1) 家庭学習等の定着・工夫に向けて

- ・自主学習ノート(Toki Note)を活用して、家庭学習の習慣づけを図ります。
- ・自主学習ノート(Toki Note)を授業、朝学習や帰り学習(Toki10)と連携させることで、統一した取組をします。

(2) 補充学習等の充実について

- ・基礎学力の向上を目的とし、一人1台端末(ドリルパーク等)を活用して、毎日10分間の補充学習(Toki10)を継続します。
- ・テスト期間中に質問日を設定し、放課後学習会を開きます。